

## 発達的气になるこどもの 家庭療育講座 ～第6回～



子どものこころの診療拠点病院推進室 ペアレントサポート研究会 陽なた

## 本日のメニュー

- ①学習会  
『今までのまとめ』
- ②グループワーク  
記録の確認、課題のみなおし
- ③全体で話し合い

## まとめ

## 観察上手になろう！

子どもの行動を見て「なぜ？」「どうして？」と思ったら、次の3点に注目してみる。



## 行動を3分割してみよう

### 3分割するメリット

- ① 行動を共通理解しやすくなる。
- ② 行動が起こる場面を予測しやすくなる。
- ③ 今どんな対応をしているかが明らかになる。
- ④ よい行動を増やしたり、困った行動を減らすための対応を考える手がかりになる。

3分割を使って観察すると、行動の意味が見えてきやすくなる。

## 観察上手のポイント

- ① 行動を具体的な言葉であらわすと、きっかけや結果に注目しやすくなる。
- ② 3分割をして、行動の前後に目を向けることで、かまってサインや時々ラッキーに気づくことができる。
- ③ その行動が起こる状況の共通性を考えることで、きっかけや結果を見つけやすくなる。
- ④ 3分割で行動の前後の状況の変化を知ること、対応の工夫を考えることができる。

## ほめ上手になろう！

ほめられることは、行動の3分割のうちの**後** (行動の結果)に関係があります。



## 上手なほめ方のポイント

子どもにとってプラスの関わりとなるような上手なほめ方には、次のようなポイントがあります。

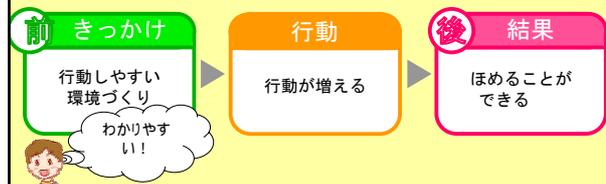
- ① よい行動をした**すぐ後**にほめる。
- ② 子どもが**わかる**言葉や表現を使う。
- ③ 子どもに**あった**ほめ方をする。
- ④ **具体的に**何がよかったのかを伝える。

## まとめ：ほめ上手

- ① ほめるのに困ったら、いいところを探してほめる、ほめるハードルを下げる、困った行動をしていないことをほめるなどの方法がある。
- ② ほめていることが伝わっているか、子どもの様子を観察する。
- ③ 心がけてほめているうちに、ほめることが習慣になってくる。

## 整え上手・伝え上手になろう！

「整えること」「伝えること」は、行動の3分割のうちの**前** (行動のきっかけ)に関係があります。



## まとめ：整え上手

- ① 環境を整えることで、子どもが落ち着けたり、学びやすくなったりする。
- ② 視覚的に示したり、余分なものを取り除いたりすることは効果的である。
- ③ 子どもが興味を持てたり、使いやすいように道具を工夫することも有効である。
- ④ 環境の整え方に決まったルールはないので、一人ひとりに合わせてオーダーメイドで考える。

## まとめ：伝え上手

- ① 声かけや指示がうまく伝わらないときは、聞いていない、理解できない、興味がないなどの場合がある。
- ② 声かけをする前、声かけの仕方、声かけの内容、声かけに従った後の対応を工夫してみる。
- ③ 約束は、「約束が守れた」という成功体験を積み重ねることから始める。

## 教え上手になろう！

「教え上手」は**行動そのもの**に働きかける方法です。子どもに教えたい一連の**行動を分解**し、細かい行動の要素に分けて考えてみましょう。



## たとえば「手を洗う」

①	蛇口をひねって水をだす
②	石けんをつける
③	泡立てる
④	両手をこすって手をあらう
⑤	石けんを洗い流す
⑥	水をとめる
⑦	タオルでふく

## 援助のポイントがわかる

<input type="radio"/>	蛇口をひねって水を出す	
<input checked="" type="checkbox"/>	石けんをつける	固形石けんを液体石けんに
<input type="radio"/>	泡立てる	
<input type="radio"/>	両手をこすって手を洗う	
<input type="radio"/>	石けんを洗い流す	
<input checked="" type="checkbox"/>	水をとめる	「とめようね」と言って蛇口を指さす
<input type="radio"/>	タオルでふく	

## まとめ：教え上手

- ① 援助をするときには、どの部分に援助が必要かをまず探してみる。
- ② 行動を分解することで、援助が必要なポイントを見つけやすくなる。
- ③ 子どもの様子を見ながら、ちょうどいい量の援助をする。
- ④ 子どもが一人でできるようになるように、少しずつ援助の量を減らしていく。